

埼玉県和光市の乳酸菌生産物質原料メーカー光英科学研究所が 法人化30周年 「ヨーグルトの日」に自社HPをリニューアル

「健やかな腸内フローラへ」をテーマに乳酸菌生産物質の研究・製造・販売を行う株式会社光英科学研究所(本社：埼玉県和光市、代表取締役社長：小野寺 洋子)は、2024年、埼玉県和光市にて法人化30周年を迎えました。乳酸菌生産物質の老舗原料メーカーとして、乳酸菌生産物質や健康に関する情報をより多くの方へお届けできるよう、5月15日「ヨーグルトの日」にホームページを30周年記念仕様にリニューアルしました。これからも和光市の地元企業として市民の皆様の健康に寄与するべく、市民の方々との交流を通じて腸内環境を大切にする活動を推進してまいります。また、今後健康推進活動の一つとして、当社が所在する埼玉県のアスリートや卓球プロリーグチームに向けてスポンサーや企業パートナーとして応援活動を行ってまいります。



株式会社光英科学研究所社屋(埼玉県和光市新倉)

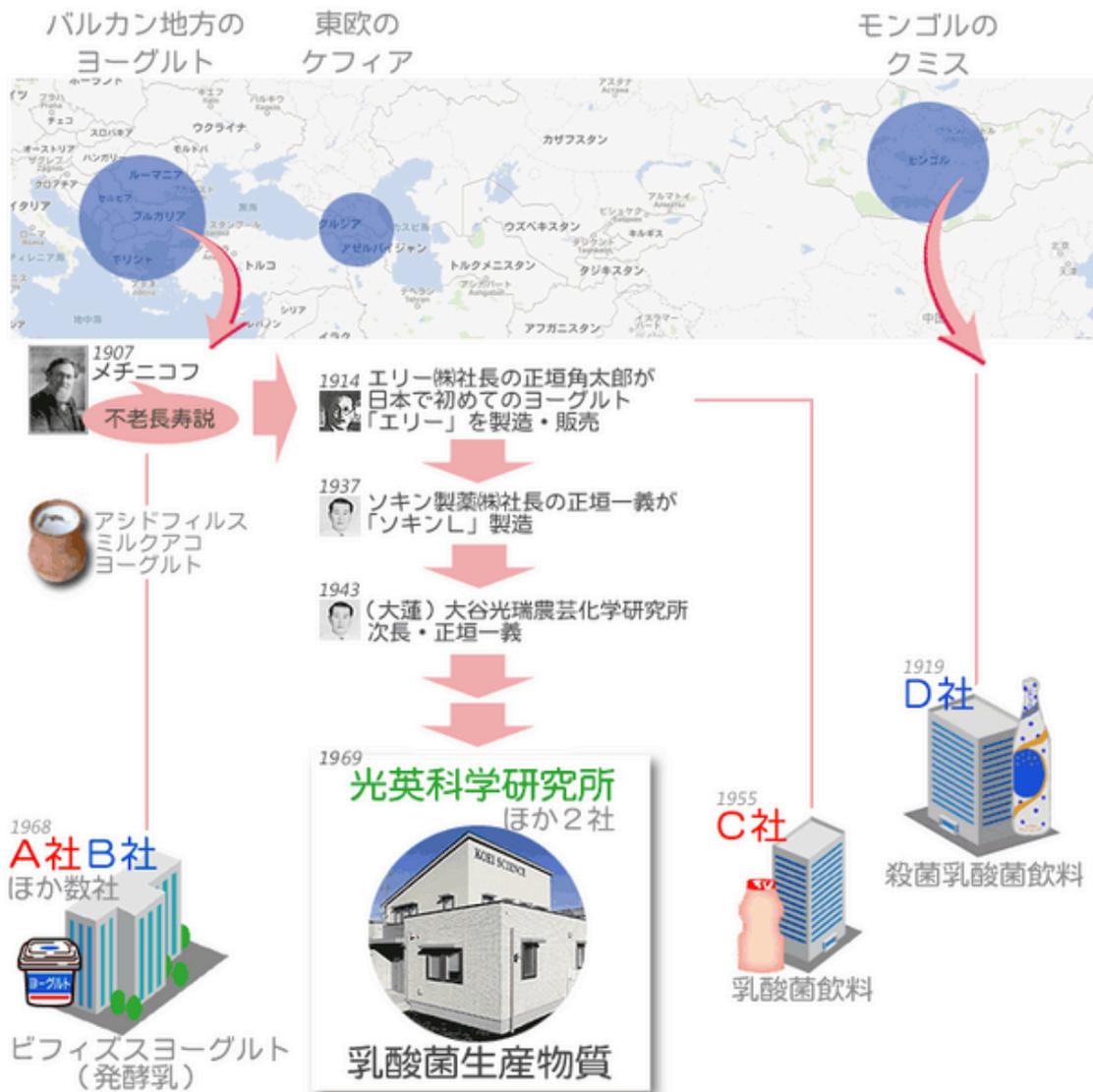
株式会社光英科学研究所 コーポレートサイト：<https://koei-science.com/>

<光英科学研究所とは>

「乳酸菌生産物質で、世界人類の健康増進に貢献します」を理念に、16種35株で構成される“複合乳酸菌Sixteens”(R)が生み出す乳酸菌生産物質を、健康食品・サプリメント原料として供給しています。

<光英科学研究所とヨーグルトの歴史>

日本初のヨーグルトは、いつ誕生したかご存知でしょうか。実は、当社の礎を築いた正垣角太郎氏が1914年(大正3年)京都市にて「エリー」の製造・販売を行い、それが日本初のヨーグルトであると言われていています。その正垣角太郎氏が着目したのが、当時のロシアの微生物学者メチニコフ(1908年ノーベル生理学・医学賞を受賞)の研究でした。メチニコフは、老化の原因は何か?という研究テーマのもと「腸内の腐敗菌増殖が老化を促す」という仮説を立て、様々な実験や調査を経て自著において、「乳酸菌を含んだヨーグルトを摂取することで腸内環境が改善される」という彼独自の説を唱えました。これが世に言う「ヨーグルト不老長寿説」で、ヨーロッパでヨーグルトが普及するきっかけを作ったと言われていています。5月15日が「ヨーグルトの日」となったのは、メチニコフの誕生日によるものです。メチニコフの影響により、日本では正垣角太郎氏による乳酸菌研究が進み、その後、角太郎氏の子息である正垣一義氏に研究が引き継がれました。そして乳酸菌が発酵して作り出す物質、現在当社が製造販売する「乳酸菌生産物質」へと研究が展開されていきました。このように、ヨーグルトの誕生と当社の歴史には大きな関係があります。その歴史について詳しく知りたくなった方はぜひ、法人化30周年記念リニューアルをした当社サイトにお越しくください。



当社とヨーグルトの歴史

<https://koei-science.com/company/history/>

<光英科学研究所の地域貢献活動の取り組み・地元アスリートの応援>

1969年に乳酸菌生産物質の研究専門機関として立ち上がった株式会社光英科学研究所は、乳酸菌生産物質の大量生産化に伴い工場と本社を埼玉県和光市に移転し法人化。今年2024年に和光市で法人化30周年を迎えます。当社は本業の企業活動に加えて地元和光市のみなさまや事業者様方とのさまざまな交流を通じて、地域社会の形成における地元企業としての役割を担うとともに、「和光・発酵・健康」をスローガンに乳酸菌生産物質を通して腸内環境の大切さをお伝えしながら、地域のみなさまの健康的な生活に貢献したいと考えております。こうした活動の一環として、埼玉県和光市出身で、現在自転車競技で活躍中の梶原悠未選手をスポンサー企業として応援しております。また、2021年に、埼玉県を本拠地とするプロ男子卓球チーム・T.T彩たまと企業パートナー契約を締結しました。世界で活躍するアスリート達の応援や地域貢献活動、地元開催イベントへの参加を通じて、より多くの方々のウェルネスに貢献する企業を目指しております。



自転車競技 梶原悠未選手



プロ男子卓球チーム T.T彩たま

<会社概要>

商号 : 株式会社光英科学研究所

代表者 : 代表取締役会長 村田 公英 / 代表取締役社長 小野寺 洋子

所在地 : 〒351-0115 埼玉県和光市新倉5-1-25

設立 : 1969年創立 / 1994年法人化

事業内容 : 乳酸菌生産物質の製造・販売、乳酸菌の培養

資本金 : 1,000万円

URL : <https://koei-science.com/>

プレスリリース画像
